

下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議（第5回）会議録

日時：2022/05/20 19:00～20:31

場所：下諏訪町役場 庁舎4階 講堂

出席者：武井委員、坂本委員、西村委員、高木委員、吉田委員、野村委員、川村委員、
萩原委員

宮坂町長、松崎教育長、樫尾教育こども課長、岩波生涯学習係長、小口副主幹、
堀内主査、原担当

欠席者：濱委員、増澤委員

事務局：

それでは定刻となりましたので、ただいまから第5回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を開催させていただきます。本日も教育こども課生涯学習係の堀内が司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいいたします。また本日は5回目となり、ひと区切りということになりますので、町長、教育長が会議に出席させていただきます、皆様のご議論を聞かせていただきますのでよろしくお願いいいたします。なお、町長につきましては別の公務があり19時20分頃の到着見込みとなっておりますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

それでは会議の方を進めさせていただきます。本日ですが、濱委員、増澤委員から欠席の旨、ご連絡をいただいております。

続きまして松崎教育長からご挨拶をお願いいいたします。

松崎教育長：

町長が今、別の会議に出席してからこちらに見えるということですので、私がお話をさせていただきます。この会議はこれまでに4回行われて、また木曾の文化ホールにも

ご視察に行かれて、その感想等をお聞きする中で、委員の皆様の方では全会一致で下諏訪総合文化センターが存続ということを前提にこれからどんな改修をしていったらいいのか、またどのような理念で、進めていったらいいのか、将来像も含めてお考えいただいていたのかなと思っています。そして今までの会議録を見せていただいて、自分としては大変力強く思っております。最近私が文化センターに関わったことを思い出しますと7月の最初の土曜日曜に人形劇祭りというのがあったんです。これは町

内の方だけの参加かなと思っていたら、半分ほどが町内ですが、諏訪郡内の市町村だけでなく他の地域の皆さんにも来ていただいて、半分ぐらいの方がそのような立場だということが分かり、これが何年も続いている中で本当にこの人形劇祭りを楽しみにしている県内の皆さんがいらっしゃるということがわかりました。でもこれ単に人形劇祭りをやって、ただ誰でも来ていいよというものよりもやっぱり目標を持って、その楽しさがわかって、子供たちと共に参加するって方たちが本当に多いんだなあとということで、私もずっと一緒にいさせていただいて思ったんですけど、本当にアマチュアの団体とプロの団体と両方の団体の皆さんが、会場に来ていただいた方たちに本当に楽しんでいただくといういろんな練習をし、事前に音量を確認し、センターのスタッフの皆さんがリハーサルの際に、こうしたらいいなどのアドバイスをしながら、参集される方もそれから劇をやる皆さん、それからスタッフも本当に一堂に介してして皆でこのお祭りを築き上げてるんだってということがわかって、それが基本的には子供たちにとっても、毎年楽しみする中身なんだなということを思いました。ただ見るだけじゃなくて参加型というようなことで、どんな人形なのかっていうこと、子供たちが経験しながら作っていく。そういったことも含めて、いろんな方が集まっているいろんなイベントをやるってことがどれだけやはり意義があるかっていうことに対して、一つ一つのそういうイベントが、やはり成り立ってきているんだなあとというふうに思いました。これからも出てきていること、いろんな発表やイベント、音楽会等を通して、皆さんの中からはやはり一番早く天井の改修を、そのための音響がどうだとかどんなことを優先し改修していくのがいいんだろうということについて、お金と相談しながらも必要だっという話が出ていますけれど、ぜひ各立場の中で忌憚のないお話をまた続けていただきながら共に考えて、より良い文化センターというものをこれから私達が考えることができればいいかなとそんな感想を持っています。そんな訳で今日また第5回ということになりますけれど、よろしくお願ひしたいと思います。

事務局：

それでは議事に移りたいと思います。

まず、下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議のこれまでの振り返り及び今後の予定について私の方からご説明を申し上げます。

これまでこちらのあり方を検討する会議ですが、合計4回開催をさせていただきました。まず第1回目は、文化センターのあり方を検討する会議の目的と役割とスケジュールについて、皆様にご説明をさせていただきました。

ここで町長が参りましたので、町長から一言ご挨拶をいただければと思います。

宮坂町長：

改めまして皆様こんばんは。今ちょっと下で別の会議が一つありましたので遅くなりまして申し訳ありません。

皆様には大変お忙しい中、下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議にご出席を賜り誠にありがとうございます。本会議につきましては4回が終わって本日5回目ということで、施設のあり方、そういったことに結びつけるために、有識者の皆様を交えて、未来に向かって下諏訪総合文化センターはどのような運営が必要なのか、という役割とその役割を担っていくためにはどのような改修が必要なのか、ということについてご協議をお願いして、会議の場を設けさせていただいたということで今までの4回の会議録につきましてはその都度報告いただき、私も読ませていただいているところでございますけれども、会議の様子といいますか内容については、把握をさせていただいております。

最初の会議のときにも出席をさせていただいて、皆様のお声をお聞かせいただいたところでございますけれども、文化センターがどのような理念を持ってという施設であるべきかということにつきまして、毎回大変皆さんの貴重なご意見や意見交換をしていただいている中で、町の文化振興のためにもこの先ずっとこの施設については続けていってほしいというようなこと、また、改修は行うべきだけれども予算にも限りがあるのでその点は考慮すべきだとか、また利用率が上がる方法とか人が集まるための具体的なアイデアというような、様々なご提案を考えご意見をいただいております、まず私もその都度、読ませていただき大変ありがたいなというふうに思っております。私と教育長も会議へ出席してほしいというご意見をいただきまして、今回はちょうど一つのステップが、方向性として定まってきたということもあって、また自分のスケジュールの方でもタイミングを合わせていただけたので出席をここでさせてもいただきました。私の立場といいますか考えとしましては、皆様に文化センターに対して日頃感じていること、またその思いなど、ご意見をいただくことを通じて、どのような運営がいいのか、必要なのか。そのためにはどのような改修

が必要なのかということ、ご協議をいただいてまとめていただいている報告を受ける側という立場でもございますので、皆様方の自由で活発なご意見に私どもが口を挟んではいけませんし、皆様方のこれまでのご協議の中では私が思っていること、考えてることと同じ方向性をお持ちいただいているので、ご協議がなされているというふうに理解をさせていただいてもおきます。そんな意味では、今日ちょうど中間ということで出席をさせていただきましたけれども、皆様方のご議論の様子を傍聴させていただくというスタンスで本日お伺いをしてございますので、皆様方の活発なご意見をしっかり聞かせていただければというふうに思っております。様々ご提案ご意見をいただいている中で、町の財政もそんなに豊かではないというところもありますので、皆様方のご意見、ご提案の全てを盛り込むことはできないかもしれませんが皆様のこれまでに、またこれからもいただけるご意見や想いはしっかりと受けとめさせていただいて、これから20年30年使っていただくのに良い施設となるように、当然努めてまいりたいと思っておりますので、本日も活発な意見交換ご意見をいただけることをご期待申し上げます。よろしくお願いたします。

事務局：

それでは引き続き会議を進行させていただきたいと思っております。

あり方を検討する会議のこれまでの振り返りの続きということで、まず第1回目ですが、文化センターの施設の現況と活動状況についてと、文化センターの目指す姿について、皆様から意見交換をしていただきました。

第2回目といたしましては、目指す姿・状態(理念の検討)下諏訪総合文化センターの具体的な目標方策についてということで、こちらは皆様方から忌憚のないご意見をいただき意見交換をしていただきました。さらに、会議の終了後に委員の皆様で大ホール天井裏の見学を実施させていただいております。

その大ホール天井裏の見学を受けまして、第3回目では木曾文化公園文化ホール、同じような改修をしているという施設でございますが、ご出席いただいた方には実際の現場も見させていただいて、またご欠席の方につきましては、報告書にてご報告させていただきました。また、第4回目には視察に行かれたご感想等をお伺いさせていただいたところです。

第4回では具体的な目標方策の検討ということで皆様方からご意見を頂戴いたしました。その中でテーマごとに、それぞれ皆様方からご意見をいただいております。ご意見

の右側の丸の数字は何回目の会議でご発言をいただいたご意見かというところを指してございます。まず下諏訪総合文化センターを廃止するか存続させるかという点についてでございますが、ホールは維持してほしいこの先もずっと使っていきたい施設や文化センターはあって当たり前でなくなることは考えられないということで全会一致で下諏訪総合文化センターは存続ということで、第2回目の会議で皆様からご意見を頂戴しました。

次に存続に当たりどのような施設であるべきかというところについては、何もなくても気軽に立ち寄れるようにしてほしい。小中学校の部活動等が地域に移行した際の拠点となる施設。地元の人が使いやすい施設ですとか、競合施設が近隣に複数あった中で下諏訪らしさを出した施設などのご意見をいただいております。

文化センターをどのような考えで運営していくべきかということについては、やはり誰のためのために運営していくかを明確にすることが必要ではないか、文化センター周辺、例えば噴水広場ですとか、広場の前のスペースでイベントができたり、一体化、一体的な利用を可能として欲しいですとか、ホール熟知してる人からアイデアを取り入れた運営をしてほしい。いかに理念に基づいて活用するかが重要である。下諏訪らしさを出してほしい。下諏訪の地元の人が優先的に使える予約方法を確立して利用率を上げていく運営をしてほしい。地元の人には利用時間の単位ですとか、そういったものを工夫して利用料を安くしてほしい。ネット予約やオンライン配信、時代に沿った運営をお願いしたい。情報発信の仕方も変えていくべき。地元の演奏家には便宜を図れる運営方針が必要ではないか。というようなご意見をいただいております。

存続に当たりどのような施設改修が必要かというところにつきましては、これは主に天井のことになりますが、法的、安全性の面で改修する必要がある部分は早急に行うべきだ。天井の改修も含めてやはり不具合が出てきてるところはしっかりしなければいけない。改修の時期に来ているが、町民の理解が必要。不必要なこともあるので削減できるところは削減すべき。公民館も含めて改修をしてほしい。

指定避難所にもなっているので、現状は最優先事項。改修に優先順位は付けるべき。天井を最優先とするが、冷暖房音響設備の改修も大変重要ではないか。やはり良い音を直接聞くことが文化ホールの目的であるので、音響が悪いならそこを解決する必要がある。天井の改修は徹底的に行うべきである。改修が音楽や音響に関するというなら、音響のプロに任せるべきある。金額が大きい小さいだけでなく、安いより高い方

がこうなんだという説得力があるのも必要。財政面の問題は大きく関わってくる。町が破綻して文化センターだけが立派にあっても意味がないことなので、どこまでなら予算的にできるのか考えることも必要。起債や補助金を活用した改修。災害時の避難等で椅子の改修も必要ではないか。音楽ホールの機能がきちんと維持できる天井の改修が必要。天井の改修を1日も早く行うべき。というようなご意見をいただきました。これとは別にもいろいろな意見をいただきましたが、ここは抜粋ということで申し訳ございませんが、このようなご議論をしていただきました。

それで本日ご議論いただく具体的な目標や方策というところになりますけれども、法的にやらなければいけなかったりする、まず目標、目標があって目的があって手段があって、皆様方からですね、幅広い手段について忌憚のないご意見を頂戴しました。そのいただいたご意見を全て見させていただいて、事務局で吟味をさせていただき、それぞれのキーワードという形で抽出し、2回目の会議でお示しをさせていただきました。皆様方から頂いたご意見をもとに、今回この資料の5でいくとそのためという項目以下が目的の部分になりますが、皆様方のいただいたご意見をもとにこの目的を作らせていただいておりますので、この目的のところに直接的な言葉としては入っていない部分もあるかもしれないですけれども、皆様からいただいた内容をここに入れさせていただいており、更にその手段として直接的に皆様方からいただいたご意見で文化センターを運営させていただくことによって、この目的と目標を達成していければというような意味合いで本日こちらの資料でお示しさせていただいております。ここはなのでちょっと今、具体的なことがなく抽象的なお話にはなってくるんですが、皆様からいただいたご意見は目標、目的を達成する手段として具体的に実行に移させていただき、文化センターの運営を行うというような思いでおりますので、本日はこちらについてご議論をいただくような形になりますが、よろしく願いいたします。では振り返りの方は簡単ではございますが以上とさせていただきます。

続きまして、第6回以降の会議スケジュールと、検討の内容（予定）でございます。今日第5回目ということで次回第6回目は、8月中旬ごろを予定しておりまして、テーマとしては改修の方向性、これまでの改修計画について、町から運営方針を取りまとめ、今日議論いただくところも取りまとめさせていただくのと、あと改修計画の経過をご説明させていただきます。改修の方向性について委員の皆様にご意見交換をしていただければと思います。既に改修の方向性は皆様から既にご意見いただいている部分も

ございますが、改めて運営方針を受けて、そういったご議論をしていただければと思います。第7回目でございますが、必要な改修、改修箇所の洗い出しと処置、町から具体的な改修の箇所と内容案を提示させていただいてご説明申し上げます。具体的な改修の箇所と内容について協議、取りまとめ、取りまとめた具体的な改修の箇所と内容の優先づけについて意見交換をさせていただきたいと思います。第8回目は、テーマとしては改修計画、議題は具体的な改修の箇所と内容の優先づけについてご報告を申し上げます。町から改修計画案をご提示させていただいて説明をさせていただきます。その改修計画案についてご協議取りまとめをしていただければと思います。そして、このタイミングで理事者の方へ運営方針と改修計画の中間報告をさせていただくことを予定しております。9回目といたしましては、改修後の年次改修更新計画ということで、議題としては運営方針と改修計画を中間報告したことをご報告させていただく中で、具体的な改修箇所の内容をもとに、今後必要な改修と定期的な更新について次期大規模改修までに行うものと、大規模改修時に行うものに分別をして、また定期的に行っていくものをさらに選別をさせていただき、項目立てと目標とする時期の設定についてご協議させていただければと思います。最後10回目、10月中旬を予定しておりますが、ここでまとめということで、年次改修と更新計画の報告ということで委員さんからのご意見を踏まえて、町がまとめました年次改修・更新計画を提示説明、年次改修・更新計画案についてご協議をいただいて取りまとめをしたいと思っております。そうすると運営方針、年次改修計画と年次改修更新計画がここで完成をする予定でございますので、そちらのご報告もさせていただきます。

その後、理事者にこれらを最終報告させていただければと考えております。それで、それぞれ一番下に次回の予定ということで、何々についてご意見をお聞かせくださいというような形になっておりますので、6回目に書いてあるものが7回目、7回目に書いてあるものは8回目というような形で、こういった内容についてご意見をお聞かせいただければと思いますので、なかなか内容的に難しい部分もあるかと思いますが、それぞれの立場で忌憚のないご意見をいただければと思いますので、堅苦しくなく、本当にそれぞれのお立場で思っていることを率直にお話していただくことが一番だと思っておりますので、第6回目以降も引き続きよろしく願いいたします。振り返りと今後の内容については以上の通りとなりますのでよろしくお願いをいたします。

それでは議事の方に入らせていただきます。本日の議題は1点になります。下諏訪総合文化センターの運営方針についてということで事務局からご説明申し上げます。

事務局：

皆様いつもありがとうございます。それでは具体的な目標方策の町がお示しをさせていただいた例に沿ってご意見をお伺いしたいと思います。お読みいただいて、考えをお持ちになっているかと思しますので、改めて説明しませんのでご意見をいただきたいと思しますのでよろしくお願いいたします。

それでは第4回の会議の際にお願いをさせていただきましたが、こちらの案について、皆様からご意見をいただきたいと思います。例えばこの内容で良いとか、あとここは変えた方がよいとか、新たにこんなことを追加した方がよいなど、本当に皆様の立場で忌憚のないご意見をいただければと思しますので、よろしくお願いいたします。

では順番に、ご意見の方いただければと思しますのでよろしくお願いいたします。

委員：

これ文化庁の委託事業の整備事業というところにこの前の一覧の項目があったんですね。それをちょっと自分でちょっと見て、それでおそらくこの項目が挙げられていますのでその話はあとでちょっとしたいと思います。というのは、公益社団法人の全国公立文化施設協会がありますよね。やっぱりそこで色々と同じような結構全国ものすごい数の文化施設と同じような課題があるっていうのがちょっとわかったんですが、申し訳ありませんが後でそのあたりの意見をお伝えしたいので最後にさせていただきます。

委員：

Aの①のイであるとか、Cの③イのように特に小中学生、青少年に対してはっていう言葉を盛り込んでいただき、とても良いと思います。Cの③のアところに、日常的に触れることができるコーナー的機会を設けるように努めるというふうに書いてあるんですけども、ハード面、またソフト面、両面でここを充実させるにはどうしたらいいかなっていうようなことを考えてきました。実施した企画であるとか、事業のハイライトを提示するとか、あと、それに対する感想・意見を交流するというような、あの

コーナーができたらいいなっていいことと思ってます。よくあの小学校中学校では、児童会ポスト生徒会ポストというようなものがあって、そこで低学年が書いて入れた内容に上級生がお悩み相談に答えるであるとか、あと、友達の親切にありがとうを伝えるというようなものがあるわけですがけれども、ぜひこの前の演奏が良かったよとか、今度こんなものを期待しているってというような、そんな交流も深まるような場、コーナーがあの日常的にあればいいなってことを思います。いずれ、部活動の拠点が文化センターに移ってきたような場合に、各校のあの交流の場であるとか、また、学校と地域との交流の場というようなものが実現できると思います。ぜひ、学校だよりも、あの掲示していただければ、毎回私の講話もあそこに提示させていただけるということになりますので、そんな面でもあの活用できるコーナーが実現できたらいいなというふうに思います。そう考えたときにそれは今でも実現できるものでありますので、ぜひ学校でも協力していきたいと思えますし、それが実現できれば、学校側の希望も十分でありますので、安全対策を重視し、費用的には最小限に改修ができれば音響面でも希望することは大きいわけですが、最低限の改修でも良いのかなっていうことは思っております。以上です。

委員：

具体的っていうその言葉が目についたんですが、これを読むとほとんどが総論的な文面であって、あまり具体的にはなっていないのかなというふうには思って感じたわけです。ただこういった運営方針等々についてはやっぱり難しい文言になってしまいますから、とっつきにくいわかりにくいというかゆっくり読まないで理解ができないというような文面になるのは仕方ないというふうには思うんですが、例えば具体的にいうと安全面等についてまずアにあるんですけど、建物が具合が悪くなったり設備が具合が悪くなったりというようなことになったときに、計画的に更新をしていくんだと書いてありますけれど、現実的に実は行われていないっていうのを目の当たりにして見てきているわけでございます。町長も教育長もいるんですが、予算をどうしても言われるとそれ以上の言葉は我々は出てこないわけでございます、例えば非常照明っていつ停電になったときに電気が点くんですけど、その球一つも変えてもらえないというような状況の中で運営をされていったときに、こういった文言がいっぱい書いてあってまことしやかな最もことなんです、絵に描いた餅になりかねないかなっていう危惧をするんです。要はいくら文章で書いても実行されない限りは文章で

しかないというふうには思ってますので、ここに書いてあることに異議を唱えるわけではございませんが、実際これが運営に役立つのかなっていう、それは運営の方法だろうと思うんですけど、そういう疑問が湧きました。内容的には別に特にこれといったものがないですけど、具体的にあんまり物を書きすぎると今度柔軟性が取れなくなりますので、ある程度柔軟に取れる文章でまとめられてるのかなというふうに思っています。

もう一つ、文化センターというもののあり方っていうものを考えたときに、我々は小さい頃は実は地域に公会所もなかったときに生まれてきたんですが、地域のコミュニケーションは子供たちだけで仲間を呼んで遊んだりしてきたんですけども、その地域の大人が子供を集めていろんなことをやってくれたというような思い出があって、そのうちに公会所ができてそこに集まって、いろんな話を聞いたりテレビもなかった時代ですからそういったことをしてきた。時代が良くなるにつれていろんな施設ができてきて、老人福祉センターだとかいろんなものができて、それぞれ目的に合った建物が作られてきて、非常に文化的に意識的にも良くなってきてるんですが、文化センターという特色はあくまで文化というものに特化しているわけでございます。毎日のように文化に触れるかっていうとそうではないんで、なかなか文化センターを頻繁に利用してくれて言ったりしてもそれは無理だろうなというふうには思っておるところでございます。今、下諏訪の場合は総合文化センター、総合というのがついています。だから文化文化に限らずいろんなものが入ってるわけですけど、文化センターだけで運営しているとやはり田舎の建物ですと人が集まらなると日頃は閑散として何かイベントがあると人が集まるってというような施設だろうというふうに思います。私はそういうものでいいんだろうとは思ってますけれど、この文章については特にここを直してほしいというようなことはないんでいいですけど、実行されるというのを約束していただければ結構だというふうに思ってます。

委員：

こんばんは。まずちょっと確認したいのが、今までの話の中であった例えば、何年までに稼働率何%とかそういう具体的な数値、こういうのに入れちゃうとちょっとさっきご指摘あったみたいに、この文言が合わなくなっちゃうと思うんですけど、それはあの別にそういうものは何か示したりとかする予定はございますか。

事務局：

これで具体的な目標が固まったところで、今度はそれに対して町がどのようなことをしていかなきゃいけないのかというのを考えて、短期的にやっていかなければいけないこと、例えば1回目から出ている利用に対する利便性というところを具体的に例えば1時間ごとの料金表にするみたいなそういった内容でお示しをしたいなと考えております。

委員：

ありがとうございます。私も数字は好きじゃないですけどでも数字ってあると達成できたかできてないか、なんでできなかったのか、これはできたっていうのがわかりやすいと思うんで、それは次のタイミングでしっかりとまたみんなで考えて出していければなとは思っています。その上でこの具体的な目標方策っていうものを作っていくってことで、どういう項目が従前かってわかんないんで、このベースに乗っていくしかないと思うし、それぞれ重要度だったりあるいは、この施設で頻度が多いことと頻度が少ないこと、例えば国際交流ってそんなに多くないかもしれないですけど、でも将来的なところでは大事なことだと思うんですけど、やはり文言に関しては、どれが違うとかはあんまりないですが、あるとすれば例えばもう少し人の心に響くような言葉を使ってみても面白いとは思うんですけどでも、いろいろな歴史の中で、こういう文章の書き方ってあると思うんで、そこは今後策定していく中でってとこで、どこに自分の考えてることが当たるかって必ずしも正確には言えないんですけど、例えば普及啓発実施に関する事項というところで、文化芸術を見る目、育てる目を広げる、文化芸術ってものが、育てるっていうか教えなきゃいけないものか、あるいは自ら欲して、それを楽しむか、そこは非常に考え方いろいろあると思うんですけど、後者であって欲しいんですけど、例えば、よそでどうしてるかわかんないんですけど、文化センターが主導して、何かの文化的なサークル活動を主導するとか、そんなに多くはないですが例えば、他市町村で結構元々音楽とか割と文化的に掘り下げてるところがあって広がりがあるなって感じてるんですけど、そこにジュニアオーケストラってね、小さい子供たちを巻き込んで、どこが主催してるかわからないんですけど、それってこの近辺にないんですよね。例えばそういうのも一つのチャンスでもありますよね。この諏訪地域に楽器を弾いてる子供たちがいるっていう中で、このホールが主導してそういうことをやっていくとそれで多くの人出入りがまず出てくるっていうところ

とか、音楽とか楽器だけじゃないんですけど、例えば演劇とかいろいろあると思うんですけど、そういうことを文化センターが主導して行う。もちろん一発的な事業演奏会とかそういうのも大事だし、発表の機会としてこの文化センターを使ってもらうことも大事ですけど、その継続的にここで経験をしてもらうってことは一つ、これから部活動とかも外部とか民間の方になっていくとかいうふうに言われる時代の中では一つの可能性かなとは思いますが。あと、今までその専門の人を入れて例えば事業をしてもらうとかそういう考え方ももちろんあったんですけど、私が知ってる中で例えば民間の人たちで、ごく小さいいわゆる分館という公民館みたいなところですけど、下諏訪の文化センターよりも遥かに小さい小ホールぐらいかもしれないですけど、そういうホールを持ってるところがあって、大変音響がいいと。自分たちの町で質の高い演奏会を聴きたいってことで、その指揮者の人たちや有識者の人たちが会を発足して、ちょっとそんな小さいホールでは呼べないような人たちを呼ぶという活動してるところがあるんですね。例えばこの下諏訪って、人口少ないかもしれないですけど、なかなか文化的な方が多いし、狭いがゆえにそういう人たちの話は非常に繋がっている。時にはその町のいろんなところに関わってやってきた人もいると思うんですけどそういう人の縁とかも、本当はそれが民間からとか町民から自然発生的ということが一番いいのかもしれないんですけど今は高齢化って言われるけど、高齢ってことはいろいろ経験積んでると思うんで、いろんなものをよく知ってると思うんで。そういったところでいろんな縁とかを繋いで、あの町民の力もうまく使って事業、公演とか、そういうものがうまく繋がらうる可能性もあるかなとは思いますが。

あとは調査研究Fは非常にこの文化センターとして難しいところなのかもしれないですけどただ、やっぱりさっき言ったみたいに、この町って財産は何かって、一つの大きなものは歴史。ここから出てきた人たちもそうですし、だいぶなくなったかもしれない街並み。非常に歴史のあるところなんで、人であったりものであったりそういうところの発掘するのは、その民間、町民の力も借りて大いにそこは拾い上げて、去年は世界から注目を集めた人も出てたりもしたので、まだまだいろいろ知らない人、あるいは下諏訪に特化しなくても諏訪の平で全然いいと思うんですよね、文化センターで何か売ってくってという点において。そういうところで、このアっていうところは結構、他の市町村ではないものがもしかしたらあるんじゃないかなと私は思ってるんで、そういったところもちょっと期待してます。

委員：

こんばんは。これを何度か読んでみたんですけど、よくわからないっていうかよくわかったというか、なんとも難しい文章だと思うんですけども内容的には全然問題はなくて、ここは省略した方がいいとか直した方がいいっていうのは特にはありません。どちらかと言うと、あまり具体的じゃなくて抽象的なんでよく分からない部分もあるんですけども、書いてある内容については特に問題はないかと思います。

特に私は公演者、発表者って形になるんで、Aの中の②公演者、発表者の利用にあたって活動を向上する場を提供していくために、利便性と快適性の向上に努めるとか、あるいはイベントに関する情報、舞台のノウハウなど気楽に話ができるように良好な関係を維持向上に努めるといふ。この辺はぜひそういうことをやっていてもらいたいなと思うし、実行していてもらいたいなと思います。

それからBについては、やはり非常に難しい問題だと思うんですけども、イに文化ホールや舞台技術者により構成される団体等が主催する研修会や講習会等に積極的に参加する。下の方のJにも同じような話が載ってたと思うんですけど、実際こういうのがやってるのかどうか知らないんですけども、あるんだったらそういうところに確かに、出かけて行って技術を高めてもらいたいとは思うんですけども、この下諏訪町の中でそういう人材を役場の職員の中で作っていきけるのかちょっと心配なところがあるのかなあとありますが、理想だということだと思います。それから、先ほどもどなたからかありましたけど、Gの普及のところのイ、小中学生青少年に対してのいろんな講座や体験等の事業を開催するという技能をお持ちの方を講師としての講座や、体験会等を開催するとか、これからも同じようなのがどっか後の方にもありましたけれども、Fの調査のところですかね。文化芸術に関わる諏訪地域の出身者やゆかりの方を掘り出して、発表会などをしてもらおうとか、こういうこともちょっとできるかわからないんですけども非常に理想的なことではぜひしてもらえたら、文化センターも良くなっていくのかなというふうにも思いました。あとは、発表する立場のものだとすると、やはりGの経営の安定化のアにもありますけど、日頃皆様との利用者とのコミュニケーションを大事にして、相談等しやすい雰囲気作りに努める、この辺はやはり私にとっては、重要なことだと思うんで、いろんな協力、あるいは相談をぜひやっていただけたらいいのかなというふうにも思います。

委員：

よろしくお願いします。私は本当にいろいろ知識がありませんで、あの無知ということは、やっぱり知らないでは済まされない、責任を放棄していることだと思って今回これに参加したんですが、今回のこの文章も、本当に一つ一つ最もなことが書いてあって、異議はありませんが、Hのその安全管理に関する事項はこれから今後の5回の中で結構検討されることだから、もういいかなと思うんですが、後の具体的なことを見ていくと、例えばAのアですね。②に各団体の多様なニーズに対応し、活動を支えるための利便性や快適性の向上ってあるんですが本当にこれ大事だと思うんですが、本当に無知で恥ずかしいですが文化センターを利用していくための運営委員会みたいのあるんですか。

事務局：

ないです。

委員：

それがないとこれはなんか前に進めないんじゃないかって思いました。つまりこの②のアのとき、これはもうITを使わないと、みんな若い人がついてきませんよね。私はもう、15、16年前に仕事の方の現役を引退したんですが、その時点で私の主としている仕事に興味があって子供を預けたいとかいう人はネットで検索するんですよ。どこにそういう子供を預けるような勉強の機関があるとか、それでくるようなもう時代でした。ですから、これ皆さんお母さん方が申し込むって言っても、スマホで空きを見たりしてそして必要ならばそれを見た後で、初めて使う人は会いに来るとか、そういうことをこれから、この文章にあること素晴らしいことなんだけどそれを実行していくための検討はもうあとの5回の中にほとんどないですよ。それがとても不安でした。それから⑧のイ。利用者が日常的な環境改善に努めるとか、とてもいいことだと思いますし、普及啓発のCのところで日常的に触れることができるコーナーや機会を設けるこれも本当に良いことだと思うんですが、そこで具体的に写真展示会とかいろいろありますね、普段選挙の投票所にあるようなスペースですけど、そういうものがどのぐらい実現できていくかっていうのは、後の5回の中でまた出てくるんですかね、鏡が必要とか具体的なことが結構ありましたね。なんかこれ、ホールの改修のこ

とがあとの5回は多くなっちゃうのかなあとあって、その辺がここに出てきたことを実行するためのことをもうちょっと検討することが必要かなっていうのを思いました。

ここに書かれてることはとてもいいことだと思います。その一つの例が、Eの国際交流に関する事項の⑤っていうところに多様性を認め合いていうのは本当に必要なことだと思うんですが、例えば料理室を外国人と使ったときに彼らから時々拒否されるんですね。料理ってというのは作るのだけが料理じゃなくて、それをちょっとした、その国の文化のランチョンマットを引いて、そこで食べる、それを含めて食文化なんだから、何で料理室の隣の部屋で会食をさせないのかって、私はそんな料理で立ったり、流し場のところで食べるような料理は引き受けられないとか、そんなことが今までも多々ありました。それをどこにどういうふうをお願いしていいかがわかりません。ですから、こういうのやっていくのに運営委員会っていうのはなくて、どうやって皆さんのニーズを吸い上げて、今回拾い上げていただくこれはとてもいい機会になったんですが、それが日常でも目安箱があればいいのか、でもそれをこのことは誰に頼んでみようとか、具体的にやるそういうお世話役みたいなそういうものがないと誰でも気軽に利用できる文化センターにここに書いてある文言を実行していくって言うことはちょっと難しいかなと思いました。先ほどのあの地域の出身の方を巻き込んでするっていうことなんかも、Fのアですね。こういうのも運営委員会があると、そこに結構意見が吸い寄せられていて、このFのアが具体的に実行できて、文化センターを利用する人が1人2人って増えていくんじゃないかなって思いました。ですから、この文章は私達のニーズを満たすことがほぼ挙げられてると思うんですが、どうやって実行していくのかっていうのにはちょっと疑問で、後の5回の中でそれを検討する機会があるのか。それが最も不安に感じました。改修はもちろん大事で、同じ設計者がやってみて、同じ規模で木曾は大変参考になりましたし、詰まってる問題は、安全性とか改修はあってそれはこれから検討されてい行くと思うんですが、今日のこのまとめの文化センターの必要性ということをどうやって実現していくかということをちょっと不安に思いました。

委員：

皆さんこんばんは。私はオブザーバーという立場で今まで参加させてもらいまして、この具体的な目標というのでも熟読はできてませんが見させていただきました。今、委員さんがおっしゃったこと、まさにその通りだと僕は思ってたんですけど、こう

いった目標、方策っていうのは大体こういう形になり、どこでもこのようなものはあると思うんです。多分町民の皆さんに理解してもらうためにいろんな項目立てして基本的には努めるっていう話なんですね。それはこういう文章にしてその通りだと思うんですけど、ものすごく内容的にはちょっと言葉悪く言うと欲張ってるなっていうぐらい盛りだくさんの内容だと思います。それで、文言についてどうこうってことじゃなくて、確かにさすがだなと思うんですが、その通りなんです、実際これを本当にその遂行していくためにですね、そもそもここには職員が何人いるんだろうか。舞台の技術者が何人いるんだろうか。稼働率が上がればそれだけ忙しくなったときに対応できるのかなっていうところがまず1点ですね。

それからあと別の委員からも先ほどありましたけども、子供たちに対してっていうことも具体的にはですね、そう言っちゃなんだけど、我々の年代では多分考えが少し固まっちゃってるんじゃないかなっていう気がしてるんです。私も還暦過ぎてるんですけど、10代の子たち、小学生の子たちが、本当にこのホールで何をしたいんだろうっていうのは、多分子供たちに聞かなきゃわからないんじゃないかなって僕は思うんですよね。そうすると子供会議じゃないんだけど、具体的にはそういうのを作って子供たちに吸い上げる場を設けるといような具体的な方策、これを実現するためにいろんなそういうことをやっていかなきゃならないと思うんですよ。そうすると職員が今、何人この施設で働いてるか知らないですけど、できるんですかねっていうことが一点。

それから舞台技術については私もあの舞台に20年以上ずっとやってきて今の事務方の方にはいるんですけど、なかなか一朝一夕では覚えられないし、やっぱり経験も相当必要になるんですね。もう、瞬間、瞬間の判断しなければならない現場ではあるので、そうすると、前の会議でも述べさせてもらいましたけど2~3年で異動する役所の職員では多分無理だろうと私は思います。なのでこの組織の体制をどうするんだっていうところからもう一回洗い直さないと、これはお題目で終わっちゃうんじゃないかなっていう感じはしていますので、すごくいいこと書いてあるし、この通りできれば本当に素晴らしいホールなんだと思うんですけど、さっき言ったように内容的には非常に盛りだくさんで、これを何人でどうやって分担してやるんだろうか、そして職員だけでは無理なのでいろんな他のグループを立ち上げてですね、意見を吸い上げてこないとできないんじゃないかなあと思うんですよね。

そのためにはやっぱりそれなりのスタッフが必要になると思いますので、その辺のところは、セットで考えていかないといけなんじゃないかなっていうふうに私はこれを見て思いました。ただ書いてあることは非常に基本的には努めるというような言い方を含めてもう締めてますんで、努めてもらえばいいんだなっていうことではあるんですけど、これはちょっと大変だなっていうのは、今感じてる率直な考え方です。

委員：

すいません。さっき先頭バッターでしたが後に回していただきました。町の方でこの資料の5に書いてあるってことの元のやつは、多分平成25年度の文部科学省の告示で出てる音楽との事業の活性化のための取り組み指針ってというのがベースになっていると思って見てます。こっちも読み合わせてちょっと見てきたんですね。ちょっといろいろ調べたら、文化施設っていうのは例えば図書館だったら司書さんがやっぱり法で守られてるんですけど、意外とこの文化施設っていうのは、そうではないっていうのが調べてわかって、文化庁の方でこういった指針を出されたのかなって。自分でもちょっと勉強してきたんですけど、これの前文の第16条第1項の規定が今回挙げられたところなんですよ。で、どうしても文化庁なんで文言が劇場音楽堂っていう、ちょっと芸術に偏りすぎてるところもあるんですけど、それに対しての文言というところで、一旦まとめてもらった方がいいのかなと思いましたんで、一つずつ項目ごとに私の勝手な感想をまとめたのをちょっとお話ししたいと思います。まず質の高い事業に実施する事項に関しては、やっぱりさっき別の委員もおっしゃったんですけどこの今のSNSなどでの発信は当たり前なので、やっぱそういうのを積極的に活用するような、項目を入れたらどうかなと思います。この資料の町で作っていた資料は私ももうその通りだというか、これやれたら素晴らしいなって思ってますね。特に否定することはないんですけど、あえて追加するっていう形でちょっと意見を言わせてもらいたいんですけど。

あとやっぱりイベント、公演、事業に対してやっぱり積極的に企画とか、専門スタッフも必要なかなって思ってます。ちょっとこの前も意見を言ったんですが、指定管理者っていうのは他市町村でやってますけど、そういった整備を想定してスタッフの評価をちょっとやったらどうかなと思ってます。ちょっと疑問だったのはこっちの法律の方に実は第10条で、指定管理者制度の運用に関する事項というのが入ってないんですよ。今回これには入ってないのは多分意図的に多分あると思うんですけど、

私はそこら辺もちょっと想定した方がいいんじゃないかなと思います。自分たちでできればいいんですけど、そうじゃないときはやっぱりちょっといろんな人の力を借りるとか、これでこのソフト面の企画とか事業のところを運営していくってところをちょっと考えなきゃいけないんじゃないかなって思ってます。やっぱり専門的人材の養成確保ってところでやっぱり私が思うのは、地域の例えば諏訪圏内に文化施設が結構ありますけど、そういったところと積極的な交流とか情報交換をして、価値を向上していくような活動を展開できればいいかなって思ってます。

あと、やっぱりこれ私も先日、前回のときに誰がやるのっていうところで、やっぱり職員の方とか町のスタッフの方と思うんですけど、やっぱりそういう専門分野とか世代も含めて、こうやっぱり人材を適正に配置してこうやってくってのも大事なのかなというふうに思いました。ここはちょっとすいません私もうまくはわからないんですけど、これを担っていくスタッフをどうやっていくかってのが大事なのかなと思います。

あとですね、経営、普及、啓蒙、啓発活動に関して私は公演者で演奏する立場なんですけど、どちらかというと観る聴くっていう受身のところから、やっぱり参加できるような、町民が参加する能動的な取り組みっていうのを積極的できればいいかなって思っていて、演奏者とか演者とか、そういうパフォーマーの創出にこのホールがうまく活用できればいいかなって思っていて、さっきの話もあったことも受けて、例えば合唱とか劇団とか、この下諏訪町を拠点とするとかこの施設を母体とするような、そういった団体を作って活動するのはどうかなと思います。必ずこの下諏訪町と文化センターに紐づいた形で活動すれば人も繋がるし世代も繋がるし発展的な活動になるんじゃないかなって思って、例えば御柱じゃないですけど町民音楽祭とか昔の文化祭とか祭りをやってるんですけど、そういうところをもうちょっと盛り上げて、より町に定着するとか町に対して愛着が出るようなことをやれば、文化センターの稼働率とかそういうところに繋がるんじゃないかなって思いました。教育機関とか福祉施設との連携っていうのは、下諏訪町の中学校とか小学校の文化祭とか合唱とか昔は体育館とかでやってたと思うんですけど、今はこの施設を使ってると思うんですよ。そういうところはまた継続してやっていけばなと。やはり若い人や子供たちが使いやすいような施設にやっぱり安全性も含めて、うまくやっていけばいいかなって思いました。

あと、関係機関との連携協力に関する事項は、やっぱりもう、下諏訪町で諏訪圏に広げていろいろやるのと、例えば諏訪圏を飛び越えてもう少し広域との連携で何かいろいろ企画をしてみるとかっていう、姉妹都市とか昔はよく行き来してたこともあったと思うんですけど、今ちょっとなかなかそういうこともできないので難しいと思うんですけど、そこまで広げてみるとか思いました。国際交流に関する事項ってちょっと難しいんで、こっちの法律の方を見ると海外の劇場との交流とか海外公演の実践とか、ちょっと敷居が高すぎて、この下諏訪の文化センターはちょっと合わないかなと思って、そこから紐解いて国際交流って何かなと思ったときには例えば町でそういう活動をずっとやられた方にいろいろ意見を聞くとか、そういう人たちを含めて聞いてちょっとこれから考えていけばいいのかなって思いました。

あとは調査研究に関すること、これは他の団体を知るとするか他の文化施設を多分下諏訪町の職員の方もいろんなところ行って研修とかされてると思うんで、釈迦に説法かもしれないんですけど、公益社団法人のこの資料を見たら、ここと同じような課題を持ってる市町村の文化施設が結構あるってということがわかって、その辺からいろんなアイデアもちょっと調べればいろいろ課題が見つかるんじゃないかなっていうふうに思うので、これはずっと継続していろいろ連携しながらやってくつのが大事かなと思ってます。経営のところなんですけど、これはですねやっぱり最後は予算がですね、お金がかかるところをどうするかっていうことで町の税金をどこまでかかっていうところもなかなか難しいと思うんですけど、いろいろ調べると助成金とか国からそういう事業に対しての補助金みたいな申請をしてる事例は結構ありますよね。そういうところにいろいろ積極的に発信してやってくつというのは必要だと思うんですけど、申請するにはやっぱりそれなりの企画力が必要だと思うんで、なかなかそこは難しいと思うんですけど、そういった企画ができれば目的というか、理念に基づいた活動をやれば、予算を何とか獲得できるんじゃないかなっていうふうに思いました。

あと、法人、個人の寄付金の活用ってのは結構調べて出てきたんですけど、こういうのっていうのは、文化センターでできるのかな。例えば民間だったらスポンサーをつけるっていろいろあるんですけど、予算をいろんな形で獲得するっていうところで寄付金の活用ってのはできないのかなっていうことをいろいろ調べてみて思いました。安全管理に関する事項っていうのは、これも具体的な建物とかこれからの工事内容だと思いますので特に私の方では、意見というかないですけど、やっぱり災害時に一時的に避難場所として受け入れる環境ということで最初から整備するってのを想定さ

れているんで、その辺はちょっと文化センターのホールでできるのってのはちょっとあるんですけど、その辺をちょっとこれから議論するのかなと思いました。以上です。

事務局：

ありがとうございました。皆さん大事な意見本当に参考になります。その中でちょっとお答えできる部分についてお答えしたいと思います。確かにこのまず全体を通して難しい、実効性はどうかというお話がありました。確かにかなり重い内容だとは思っております。だからこそこれを実現させるためにどうしたらいいかということを考えた運営をしていただきたいというところです。実現できないものと言うのではなくて、実現させるように体制なり予算なりを含めて町の方で考えてやっていくべきことだと思います。また、この下に今度具体的に何をしていくっていうのをお示しするというお話をさせていただいたかと思うんですが、それについては町の方で考えて、加えていく形になりますので、今後この場では現時点ではお話をすることはありません。ですが、前回、今回の会議で委員の方からのご発言もありましたが、確かに企画運営についての協議会や審議会がないっていうのは大きな課題であると思っております。それに対してはそういった組織の立ち上げも検討して考えていきたいかなとおもっております。そしてそれはこの下の、文言で具体的にやることとして加えていきたいなと考えております。皆さんからいただいた意見、改めて修正をかけたものを、次回お示ししたいと思いますのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。

樫尾教育子ども課長：

教育子ども課長の樫尾です。お忙しい中しっかりお目通しいただき、また、いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。やはり実行できるかが心配といったご意見がありました。絵に描いた餅にならないようにというなお話もありましたけれども、本当にその部分は大変重要な部分だと思っております。この中にいくつも努めるという表現があります。努力していくということになりますけれども、当然作ったからには責任を持って努めてまいりたいと思っております。また具体的な数値目標的なものはっていうなお話もありましたけれども、町ではいろんな事業で事務事業評価というようなものを設けておりまして、それぞれいろんな成果指標的なもの

のを設けて目標を定めて、達成率ですとか様々な事業で行っておりますけれども、そういうものが適用できる部分については、そういったものも目標として定めて進んでいかねばというふうにも考えているところです。

先ほどの職員数のお話がありましたけれども、現在町の正規職員としましては1.5人区でございます。文化センターの主で1人と、あと兼務で、正規職員では1.5人区でそれ以外に専門の業者さんで、メディックさんという業者さんが常勤で2人いるという職員体制となっております。

事務局：

それでは本日、予定された議題は以上となりますが、最後皆様方から何か言い残してしまったりとか、こんなことを言いたいというようなことがございましたら、お願いできればと思いますが、いかがでしょうか？よろしいですかね。それでは、最後に町長の方から一言ご感想をいただければと思いますのでお願いいたします。

宮坂町長：

傍聴者として聞かせていただいて大変いいご意見をたくさん出していただきありがとうございます。私も具体的な目標の内容については、結構ハードルが高いというふうに思っただけで聞いていただいてもおります。今までに様々なご意見をいただいた中で、改修が終わって具体的に運営をしていく。当初、この文化センターがオープンした折は、担当の職員が研修等に行って舞台を実際に回したり、音響また照明等の操作もする中で、そこに専門的に関わっていた職員が研修を含めて2~3人いたと思うんですね。しばらくはそのメンバーでしたが、皆さんおっしゃるように職員なものですから異動があるということで1人異動したときに、新たにきた職員がまだ研修に行って3人でまた回していくというようなことで、ある程度はやれてきたのが、だんだんこうした施設、オープンがピークでイベントをずっと続けていく中でも、だんだん入館者数、利用者数が減っていったりする。簡単に言うと、かかる経費と入場料等の収入のバランスがどんどんアンバランスになっていく。だんだんそういうところに職員配置が減っていくといいますか、そのような形になって、正直言って、現在はいわゆる館をお貸しする方が主体になってしまう。それまでは自主事業としての予算も結構な予算を組んで、されていたというふうに私も記憶をしておるんですけど、そのような形になっているというところが、私も同じ教育委員会の中で仕事をしておりましたの

で、そんな流れだったのかなあというふうに思っています。ここで新たにこうした皆さん方にも改修のことについて、改修をしてこれから20年30年運営していく、使っていくというところの中にこうしたあり方検討会を作らせていただいて、ご意見をいただきアイデアをいただき改修を含めましてどうしていくのが一番いいのかというところで、この会を持たせていただいたのは大変、今日のご意見も伺う中ではありがたいなというふうに思っております。おっしゃるように改修後に文化センターを実際に運営していくためには、今の状態ではおそらく難しいと考えております。これはもうどなたが考えても明らかでありますので、これを運営していくための方法を合わせて考えていかなきゃいけないと私も思います。そうした中で、この具体的な目標がきちんと実行でき、対応できるというためには、今までなかった運営協議会とか、運営委員会的なものも当然必要になろうかと思えます。事業を評価していくためにも、またPDCAで、そうしたものを評価し、また改善して回していくためにも必要な部分に当然なっていくんだらうなというふうに思ってお聞きをしておりました。この段階で具体的なお話を申し上げることはできませんが、こうしたことをまとめさせていただいて、実際にただいまご意見をいただいたように、いかにこれを良い運営をしていくかということに対しては、様々検討も並行してさせていただいて、その部分についても、これからあと残りの5回もございます。いろんな検討をいただいたり、ご提案いただいたりすると思えますのでそうしたものもまとめていただく中で、最終的に今おっしゃられたように、こうした改修に向けての様々なご意見を今度は、こうしたものを運営に移していくためにどうすればいいかというところにも、ある程度時間を使わせていただいた方がいいような気が今のお話を伺っている中では感じているところもございます。少し時間的なものも見させていただく中でいわゆる改修するための経費のかけ方の問題、今検討いただいて、必要な部分とこれはいいだらう、もう少し二次計画みたいにしてやっていくことも考え方の一つだらうと思っております。そうしたものに対して、少し財政的な検討も併せてさせてもいただきたいなと思っておりますので、そうしたことに並行して、良い運営をするためのことも検討をしていただければありがたいなと思ってお聞きをしておりました。今日はいろいろご意見をお聞きする中で、私の頭の中でも、様々な事を考えました。これだったらこういうふうにしなないといけないかな、こういうことも考えていった方がいいんだよねということぐるぐる頭の中で回らせていただきましたので、本当に傍聴させていただいて大変ありがたか

ったというふうに思っております。今後、あと残りの5回もよろしくお願いをしたいと思えます。ありがとうございます。

事務局：

それでは長時間にわたり本日もご議論いただきましてありがとうございました。

以上で第5回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を終了いたします。